

地域密着性・情報速報性に長けた 地域新メディアの創出

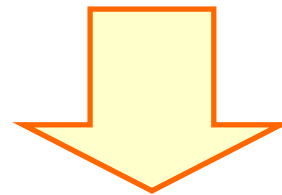
2011年2月4日(金)
株式会社エフエム京都
京セラコミュニケーションシステム株式会社

株式会社エフエム京都(α-STATION)

1991年開局の独立系FM放送局。「α」=「心地よさ」をコンセプトに、地域に密着した独自の番組編成が特徴。早くから放送通信連携のリスナーサービス実現に取り組む。

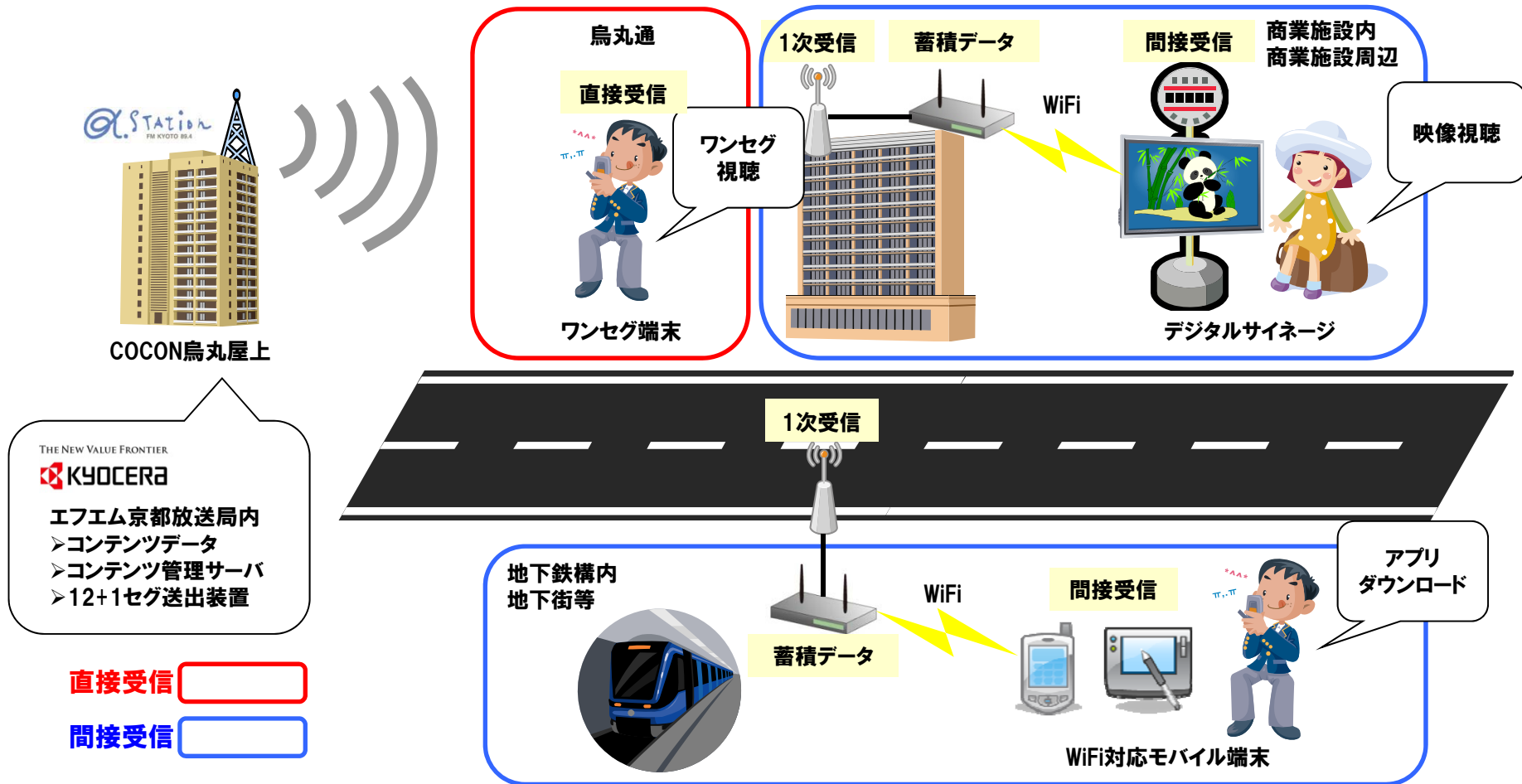
京セラコミュニケーションシステム株式会社(KCCS)

京セラ社内ベンチャーとして1995年に独立。ICT・通信エンジニアリング・経営コンサルティングの3つの事業を展開。2007年よりエリアワンセグ関連の取り組みを開始。



2007年より京都市内にてエリアワンセグ実証実験を積み重ねる。本提案では、従来のエリアワンセグに蓄積メディア配信(IP DataCast 以下IPDC)を付加し、ホワイトスペースにおける地域新メディアを提案する。

地デジ1チャンネル帯域をエリアワンセグとIP DataCastの2つに活用



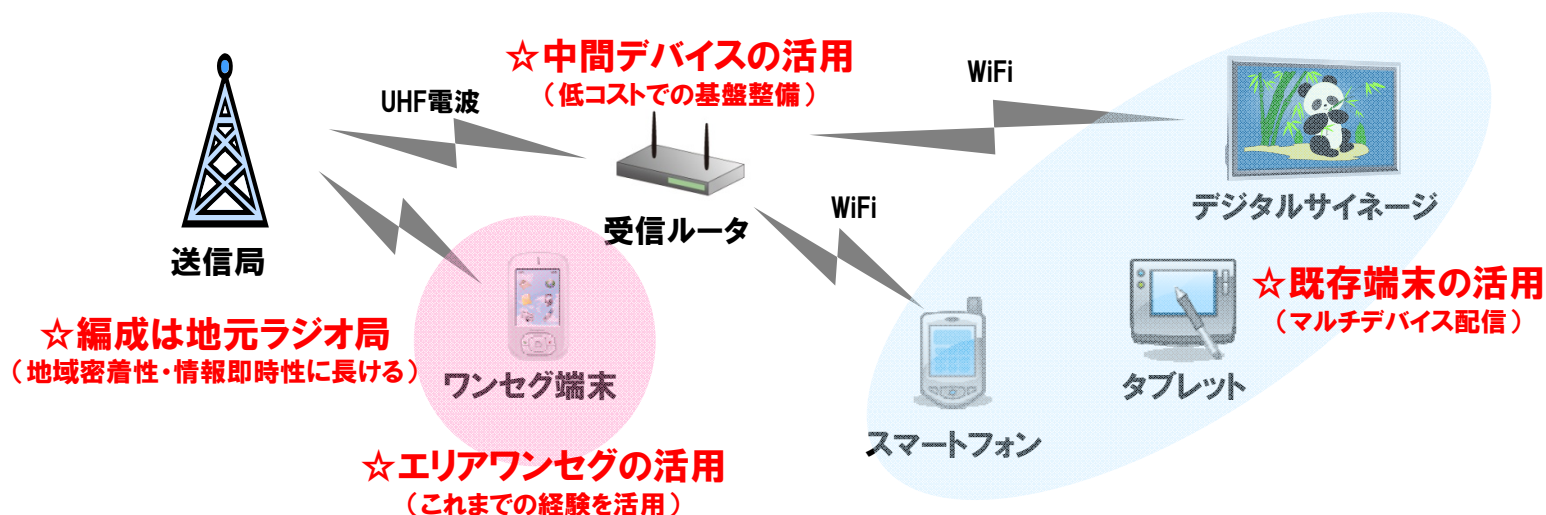
コンテンツ編成をラジオ局が行うことで、地域に密着した新メディアの創出を目指す³!

効果①ユビキタス環境型情報配信

京都は国内外問わず観光客が多く、常にマルチデバイスを意識しなければならない環境である。放送波でワンセグに留まらないマルチデバイス向け情報配信を行うことで、より多くの人に様々なコンテンツを提供することが期待できる。

効果②デジタルメディア環境の整備

京都はコンテンツ先進地域でありながら、デジタルサイネージ等デジタルメディア後進地域である。放送波による既存デバイスへの情報配信は、安価にデジタルメディアを設置できることに繋がり、国際都市京都の発展に繋がりつつ、地域の産業振興に寄与するべく、将来的な収益スキームの可能性も検証する。



課題①提供コンテンツの範囲

現状の実験試験局ではコンテンツ制限も多く、特区に制限を当てはめるとコンテンツは全て1からの制作となる。結果、制作費が増え、事業性が見出せなくなる。

⇒ビジネス検証も重要課題であるため、特区での提供コンテンツ緩和をお願いしたい。

課題②IPDC仕様の確立



今回のIPDCは、ユースケースがISDB-TmmやDVB-H等と異なる(モバイルに特化しない)ため特区において様々なデータ取得を行い、今後のIPDC仕様の標準化に取り組む必要がある。

⇒IPDCフォーラムと連携し、ホワイトスペースにおけるIPDC仕様策定を推進する。

課題③エリアワンセグ操作性の向上

エリアワンセグ実施において、チャンネル合わせと柔軟なWeb連携は必ず問題になる。

⇒エリアワンセグシステム開発委員会と連携し、ユーザビリティ改善案の検討に取り組む。

課題解決を推進し、特区取り組みの成功により、地域振興に寄与・貢献したい！